

都市景観賞選考総評

選考会議議長 安 枝 英 俊



第13回姫路都市景観賞選考会議の議長を
あずかっておりました兵庫県立大学の安枝
と申します。総評をさせていただきたいと
思います。

今回は、都市景観賞が2点、特別賞が3点、
選考されたということでもあります。

本日は受賞された皆様に置かれましては、
改めまして大変おめでとうございます。

まず、建造物部門の都市景観賞を受賞さ
れました「COROHIME PARK（カロひめパー
ク）」です。

大変印象的でありますのが、敷地の大部
分が緑の公園になっているところであ
ります。近年、民間企業の方や民間事業者の方
が自社の敷地の一部をオープンスペースと
して、地域に開放するということはよく事
例で見られますが、これほど大きな部分を
地域、或いは社会に対して開放されている
事例はないと思います。

また、単に広場を作って開放するという
ことだけではなく、ドーム型のイベントス
ペースや通り抜けができる通路、ドッグラ
ン、それから丘状になったスペース、特に
この丘状になったスペースは、丘の上から
周りの地域を見渡せるような高台になって
いるだけでなく、その下の部分が半屋外の、

本や新聞を読んだりできるような、ゆっく
り過ごせる場所が作られているというのが
非常に印象的でした。

公園といいますと基本的にはベンチと樹
木というだけになりますが、建築を使って、
オープンスペースがしっかりデザインされ
ていることが、審査員の評価が非常に高か
ったところでございます。

また、単ににぎわいだけを作るのではな
く、1人で散歩する、1人で少し休憩しに行
く、そういう雰囲気を醸し出しているところ
も非常に重要な評価の点だったかと思ひ
ます。

この建築が建っておりますのはロードサ
イドです。全国でロードサイドというのは
たくさんあり、大体どこの町も同じような
景観になりがちですが、このようにこの町
にしかないような建物が建つことが、ロー
ドサイドの景観に対して新しい可能性を見
開くという意味でも、都市景観という景観
を作る要素になっているという意味でも、
非常に評価をさせていただいた次第でござ
います。

建造物部門につきましては特別賞として2
点、「SHINBU STORE 姫路店」と「手仕事
喫茶『御座候』書写山麓店」を選考させて
いただきました。

「SHINBU STORE 姫路店」は剣道具の販
売店です。店舗ですのでここがお店だとい
うことがわからないといけないのですが、
市川の左岸に面していますので、景観上の
配慮も川岸に建つ建築物として、あまり大
きなボリュームを作ることでもできない一
方で、この周りは物流施設や倉庫もたくさん
あり、あまり小さな建築物を作ってしまう

と、その中に埋もれてしまい店舗としての視認性が失われてしまうことになります。

現地に行って大変感動しましたのが、建物を目立たせようと思うと、高く大きくつくればいいのですが、そういうことはせず、平屋で、四角い建物の一辺だけを少し高くして、高くなっているところの立面、ファサードに木質パネルを入れるというボリュームを最小限に抑えながら、でもここに何か店舗があるのだということがわかる造りになっています。先ほど市長もおっしゃっていましたが、剣道の面に見えるような店舗の中で売っているものと繋がりを作るデザインをされているというところも、非常に評価されました。

今後店舗が、自分の建築のデザインをどんどん主張するだけではなく、地域や周辺の環境を読み込みつつ、視認性の高い建物を作るということは、かなり大きな示唆を与える建築物だというふうに思います。

続きまして、「手仕事喫茶『御座候』書写山麓店」の建築物につきましては、外構がとても緑豊かに作られおり、建物が外から見えないくらい緑に囲まれている建築でした。

緑に囲まれている建築で、その中に古民家風の店舗があり、喫茶スペースがあるのですが、周りの緑と建物とテラス席が大きく広くあり、ずっと長く居たくなる建物です。中と外がうまくテラスの中で繋がっており、建物と周りの外構がバラバラに見える建築もたくさんこれまで見てきましたが、本当に一体的に緩やかに繋がっているというところが、大変印象的な建築物でございました。

次に景観まちづくり活動部門について話をさせていただきます。

まず都市景観賞に選考されました「阿成北公園」につきまして、私たちも現地に行って審査をさせていただきましたが、8月の第1週でとても暑い日でした。日傘をささな

いと歩けないぐらいの日でしたが、この公園はメタセコイアの大きな樹木がたくさん並木状になっており、その大きな樹冠の下に入ると、パッと夏の暑さを忘れるくらい涼しく、川岸でもありますので、風も吹き8月の猛暑を忘れるような体験ができました。

今大きな樹木は、落ち葉が邪魔だとか、管理が大変だとか、強剪定で葉っぱや枝をどんどん切ろうとされるのですが、おそらくメタセコイアは、私も緑の専門家ではございませんが、管理や植栽の手入れが大変な樹木だというふうに聞いております。その樹木の樹冠をあえて大きく残して、人の居場所を樹木の下につくる公園というのは、ベンチを置けば人が座るかもしれませんが、やはりこの樹木の下が居心地いいというのが、公園のすごく大事な価値だと思います。それを私たちの目に見えないところで、いろんな苦労されながら管理をなさっていることが非常に印象的でありました。

またもう1つ印象的だったのが、公園でいきますと、静かに使いなさいとか、或いはボール遊びをしたらダメとか、禁止事項がたくさん書かれているのですが、この公園は、禁止事項の看板が、私が認識している限りありませんでした。

それはおそらく地域の皆様が普段から公園に対して関わりを持って、いろんなことをコントロールされているからこそ、看板がなくてもちゃんと利用ができている公園になっているのが素晴らしい点だと思います。

逆に看板で見つかったのは、この公園にはこんな植栽や草花がありますよという草花図鑑の解説のようなパネルが立っており、公園の新しい利用や価値を発信するようなものとして、禁止事項がなく、むしろ植栽の魅力を伝える看板が付いているのが、大変印象的でありました。

言葉で申し上げるのは大変簡単なことなのかもしれませんが、ああいいう状態にする

のはとても大変なことだと思いますので、審査員も大変感銘を受けました。

最後、特別賞の「ザッパ村」につきましては、普通の店舗ではなく店主のこだわりが店の外まで溢れることがわかるような、しかも敷地全体に関しても、非常に手づくりの居場所がたくさん置かれていて、緑もたくさんあります。この緑も、夏の間に行ったのですが、おそらく四季によって表情が変わるような植栽を育てられているような感じがして、毎回季節ごとに違う表情を出すように、ザッパ村というこの緑を育成されているのかなと思いました。実際、社員の皆様が毎朝20分間植栽の管理をしたり、その地域の子供たちと一緒に緑を学んだり、そういう活動もされているということで、ザッパ村の活動がザッパ村だけに関係するのではなく、地域にさまざまな波及効果をおよぼしているというところも非常に感銘を受けたところでございます。

以上、景観賞2点、特別賞3点を選ばせていただきましたが、私は今年全体を見て非常に印象的だったのが、市民の皆様に長くゆったり過ごせるような居場所を提供しようという建築物や活動というのが非常に多かったことです。

近年、孤独孤立の予防が社会課題になっております。それに対して建築に何ができるのかということは、私も常に問われているところではありますが、やはりその1つは外出行動を人々に促すことだと思います。誰かとしゃべるとか、誰かと一緒に行くということではなく、1人でもふらっと立ち寄りたくなるとか、そこに行けば長くいろんなこと忘れて過ごせるとか、そういう場所が姫路市内にたくさん増えてくると、外出行動を促し、この孤独孤立の予防にも繋がります、社会課題が美しい建築によって少しずつ変わっていく状況が生まれていくのではないかと思います。見させていただきました。

最後になりますが、今回賞を受賞された作品以外にも数多くの応募をいただきました。1つ1つが、審査をする中で非常に大きな魅力も持ち、工夫もされております。このような計画や施行をされた皆様にこの場を借りて改めて敬意を表したいと思います。長くなりましたが、私の方からの総評とさせていただきます。